

天栄中だより

鈴鹿市立天栄中学校

510-0258 鈴鹿市秋永町 1839

Tel 059-386-0444 Fax 059-386-0445

全国学力・学習状況調査 結果(概要)

4月19日(火)に、3年生で実施しました「全国学力・学習状況調査」の結果と分析(概要)と今後の取組についてお知らせします。なお、今回の調査により測定できるのは学力の特定部分であり、学校における教育活動の一側面であることを考慮しつつ、ご家庭のご協力のもと、今後の本校の子どもたちの学力向上等の取組に生かしていきます。

(1) 平均正答率

	天栄中	鈴鹿	三重県	全国
国語	67.0	66.0	68.0	69.0
数学	49.0	50.0	52.0	51.4
理科	46.0	46.0	48.0	49.3



(2) 教科に関する調査 <【 】内は本校正答率や全国比(抜粋)>

○：強み (平均正答率が80%以上, または全国比+5以上)

●：弱み (平均正答率が20%未満, または全国比-5以上)

【国語】

- 自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く【53.0% 全国比：+6.5】
- 助動詞の働きについて理解し、目的に応じて使う【85.8% 全国比：+3.5】
- 文脈に即して漢字を正しく書く【81.3% 全国比：+0.8】
- 事象や行為、心情を表す語句について理解する【86.6% 全国比：+2.6】
- 漢字の行書の読みやすい書き方について理解する【90.3% 全国比：+0.2】
- 自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話す【44.8% 全国比：-7.0】
- 表現の技法について理解する【45.5% 全国比：-7.0】
- 場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉える【53.0% 全国比：-7.7】
- 漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解する【75.4% 全国比：-5.7】

【数学】

- 多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の意味を理解している【86.6% 全国比：+3.3】
- 簡単な連立二元一次方程式を解くことができる【69.4% 全国比：-5.1】
- 一次関数の変化の割合の意味を理解している【30.6% 全国比：-7.3】
- 目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる【41.0% 全国比：-7.7】
- 結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明することができる【26.1% 全国比：-11.5】
- 筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明することができる【8.2% 全国比：-4.3】



【理科】

- 水素を燃料として使うしくみの例の水の質量の変化について、適切なものを選択する
【65.7% 全国比：+5.5】
- 水素を燃料として使うしくみの例の全体を働かせるおおもとを指摘する【33.6% 全国比：+8.8】
- 脊椎動物には骨格のつくりに通点があることから、カラスの関節Aに対応するヒトとカエルのあしの関節を選択する【71.6% 全国比：+6.0】
- 上空の気象現象を地上の観測データを用いて推論した考察の妥当性について判断する
【23.1% 全国比：-5.4】
- おもりに働く重力とつり合う力の矢印を選択し、その力について説明する【9.0% 全国比：-6.3】
- 「ばねが縮む長さは、加える力の大きさに比例するか」という課題に正対した考察を行うために、適切に処理されたグラフを選択する【36.6% 全国比：-8.4】
- 考察の妥当性を高めるために、測定範囲と刻み幅をどのように調整して測定点を増やすかを説明する
【35.8% 全国比：-7.5】
- 予想や仮説と異なる実験の結果が出る場合、その意味することや考えられる可能性について考え、実験の操作や条件制御の不備の可能性を指摘する【48.5% 全国比：-6.6】
- 生物Xが昆虫類かどうかアリと比較しながら、観点と基準を明確にして判断する【29.1% 全国比：-10.1】

＜国語についての分析と取組＞

・「情報の扱い方に関する事項」、「書くこと」の領域に強みがみられた。また、文章中で語句がどのような意味で使われているかを読み取ることに強みがみられた。一方、スピーチや文章に意図的に使われている表現の工夫や表現技法について弱みがみられた。また、話の展開に沿って解答することに弱みがみられた。

今後、「話すこと、聞くこと」において、該当単元のときだけではなく逐スピーチ、論述、意見発表の意図や工夫を確認していく。さらに、小説本文の読解において、話の展開を常に意識させる。場面ごとの心情や出来事だけでなく、全体の流れや展開を把握するための授業の工夫をしていく。

＜数学についての分析と取組＞

・不確定な事象を捉え考察する際、事象に即して解釈したことを数学的に表現すること(確率など)や目的に応じてデータを収集して分析し、データの分布の傾向を読み取り批判的に考察し判断することなど「データの活用」の領域に強みがみられた。一方、簡単な連立二元一次方程式を解いたり、一次関数の変化の割合の意味を問われる問題に弱みがみられた。また、目的に応じて式を変化したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成立する理由を説明することや結論成立のための前提を考え、新たな事項を見出し、説明することに弱みがみられた。

今後、既習の学習内容を生かし、解決方法を理論的に裏付けていくといった数学的な見方・考え方を働かせるような課題を工夫したり、学び合いの学習を通じて、自分の考えをまとめ、他者の考えと比較したりしながら考えを深め広げる活動を増やしていく。また、小テスト、補習時間を確保するなど、数学の基礎・基本事項の定着を図る。

＜理科についての分析と取組＞

・分野によって得意(化学)、不得意(物理、地学)の偏りがみられた。粒子の保存性の視点から化学変化に関わる物質の質量について分析し、解釈することや化学変化に関する知識・技能と「エネルギー」を柱とする領域を関連付け、分析し、解釈することに強みがみられた。一方、予測や仮説と異なる結果が出た場合、結果の意味を考え観察、実験の操作を探究し、探究の過程の見通しを持つことや考察の妥当性を高めるために実験の計画を改善したりすること、物理、地学分野において知識・技能を活用して科学的に考察することに弱みがみられた。

今後、探究の各過程において見通しに沿って行われているか振り返りをしたり、実験・観察を計画する際には、予想をしたり、仮説を立てたりするだけではなく、それらと異なる結果が出た場合について考察する学習を意図的に取り入れる。また、身近な事象を用いて興味関心を持たせながら既習の基礎知識を生かし、科学的な見方・考え方を養えるような授業展開を行う。

学校全体として「主体的・対話的で深い学び」の実現につながる『協働課題』の設定、UDの視点の導入、ICTの利活用を中心に授業改善に取り組んでいきます。